

(7) 小児1型糖尿病患児のエネルギー消費量，食生活の調査

川崎医療福祉大学大学院 臨床栄養学専攻 修士課程 中井 健太

川崎医療福祉大学 臨床栄養学科 堀尾 拓之

川崎医療福祉大学 臨床栄養学科 松枝 秀二

【要 旨】

【目的】小児1型糖尿病サマーキャンプ期間中に食事療法の状況や生活習慣についてアンケート及び歩数計を用いたキャンプ期間中の活動状況の調査を行った。

【方法】岡山つぼみの会主催1型糖尿病サマーキャンプ(2009年8月2日～6日)の参加者(13.6±2.8歳)のうち保護者の同意を得られた18名を対象に調査を行った。初日に歩数計を配付し装着してもらい、タイムスタディ・摂食量を記録し最終日にアンケート調査を行った。

【結果】対象者の平均HbA1cは8.1±1.9%で目標としている6.3±0.8%より高値だった。全員が食品交換表を持っているがいつも使っている者の割合は5.6%，全く使用しない者の割合は50.0%であった。サマーキャンプ1日当たりの摂取エネルギーは2145±326kcal，消費エネルギーは1975±278kcalであった。

【考察】アンケート調査より患児自身は低血糖を起

こすことを恐れインスリン量を減らしていることが見受けられた。低血糖に陥ることは日常生活の支障となるが，高血糖状態が続けばいずれ日常生活に支障を来すことも認識させる必要がある。食品交換表の使用頻度が低いのは使用方法を理解しているが面倒，又は保護者が代わりに使用しているためと考えられる。もし使いづらいために使用していない場合はカーボカウント法等別の栄養療法を取り入れる必要があると思われる。消費・摂取エネルギーのバランスはほぼ取れているが日常生活では活動量は減り，間食する機会が増えると考えられるため自身の必要エネルギー量の把握，糖質の過剰摂取をしないようにする必要がある。

【結語】低血糖と高血糖のリスク及び対処法，望ましい食生活・運動習慣を患児が自発的に行えるよう指導する必要がある。次回以降の調査は食品交換表の使用の実態，食品交換表以外の食事療法についての内容を質問しより詳しい実態について探りたい。